



高冷地には雪が降り、信州の冬がやってきました。会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。新型コロナのワクチン接種が進み、全国的に感染状況が落ち着いてきました。このまま収束の方向に向かうことを願います。

「野原の歌」今号は本協議会運営の「傾聴ボランティア基礎講座」の実施の様子についてお伝えします。

2020年は、8月22日の岡谷市の講座が最後となり、2021年は感染拡大のため実施できず、長和町での

10月開催が2021年の最初となりました。(コロナ禍での講座であるため、プログラムを一部変更して行いました。)

安全な基礎講座を開催するために、以下の事について県連絡協議会の指針を策定しました。

### 県連絡協議会感染対策

- 1, 講座開催の条件
- 2, 実施会場の感染対策
- 3, 講座の内容と感染対策
- 4, 講座の時間の短縮

詳細については協議会にお問い合わせください。



今まで県協議が行っている基礎講座についてその内容などについては会報でお知らせしていませんでした。

長和町での講座の開催はコロナ禍での貴重な実践でしたので、会員の皆様にお伝えします。

「開講経過報告 ～ これから基礎講座を進めるために」(長和町傾聴ラポール代表 協議会研修部 三宅 秀明 ) を掲載します。

長いコロナ禍で、傾聴活動はもとより、定例会もできなかったグループもあるようです。

3回目のワクチン接種の方向も決まり、感染状況が落ち着いている今「傾聴ボランティア基礎講座」の開講を計画して傾聴の活動を広く充実させてはいかがでしょう。

新規会員の拡充と現会員のスキルアップ・復習の勉強会など傾聴活動再開に向けてのウォーミングアップにもなります。

講座の簡略化などご相談に応じますので、連絡協議会代表または研修部にご連絡ください。

### 基礎講座のプログラム

基礎講座 ⇨ 施設実習 ⇨ まとめ講座

#### 基礎講座内容

<理論編>

- 傾聴とは何か
- よい聴き手になる
- 傾聴の基本的な心構え
- より良い出会いの作り方
- 傾聴のスキル
- 認知症の方の傾聴

<実習編 ロールプレイング>

- 傾聴スキルを使っでの対話実習

#### まとめ講座内容

- 施設実習報告の共有
- グループ傾聴
- 傾聴ボランティアとカウンセリング
- 被災者傾聴
- コロナ禍での傾聴
- 傾聴ボランティアナビゲーション



長野県傾聴ボランティア連絡協議会  
代表 長谷川 昭 TEL FAX 0264-48-2133  
携帯 09043981187  
mail mr.kaeru77@ot.kiso.ne.jp  
〒397-0201 木曾郡王滝村 4100-13



広報担当 弓削 淑子  
TEL FAX 0266-74-1122  
mail yugetora@po30.lcv.ne.jp  
〒391-0115 諏訪郡原山17217-2199

## 長和町 傾聴ボランティア基礎講座 開講経過報告 ～ これから基礎講座を進めるために

2021. 11. 15 研修部 三宅 秀明

長和町では、10月16日基礎講座、11月13日まとめ講座を開講し、修了することができました。初めて受講される方と、すでに傾聴をやられている方合わせて、18名受講しました。(修了は16名)受講生は少な目ではありましたが、新規の講座としてコロナ禍の中では、初めての講座で無事終了することができました。

### ■経過

長和町社協主催の基礎講座は、2020年5月と7月に開講を予定し、日程を決め、募集開始直前まで準備しましたが、コロナ感染で、ほとんどのイベントが中止される中、延期せざるをえませんでした。県内では、やり残した飯山、伊那、岡谷のまとめ講座をどう実施しようかと検討している状況でした。(結果、7月から9月の間に感染も無く無事修了できました。)

今年に入り、感染が小康状態の時、木曾町で9月と10月に基礎講座開講が決まり、そのタイミングに合わせて、計画をしなければ、いつまでも講座はできないと考え、開催を決めました。計画時のコロナの状況は、7月中旬第5波に入る直前のところで、その後は想像もできない程の感染拡大で、自宅で医療を受けられず亡くなる方もおられる中、開講までたどり着けるか?とても不安で、延期を前提に準備をしておくようになると想定していました。

基礎講座の計画にあたっては、

- ①参加者が確定していれば、感染の状況を見て、実施、中止の判断と連絡は迅速に行動し周知できる。
- ②実施・中止の判断基準と判断日を事前に決めておき、躊躇なく判断・連絡ができるようにしておく。参加者が決まっていれば、中止・再開でも、機動的に動くことができる。
- ③感染症対策は、県協議会の指針に沿って、準備する。  
として取り組むこととしていました。

### ■結果

劇的に感染が減り、警戒レベル3以下、町内感染者ゼロとなり、開催することが出来ました。

- 感染対策として、受講者募集を積極的に行わず、どちらかという自然発生的な受講希望者のみとして、受講者を絞りました。結果論ですが、もう少し積極的に募集しても良かったと思います。施設での実習受け入れ先が少なく、個人宅傾聴に集中してしまい、話し手に負担を掛けてしまった。実習についてはもう少しきめ細やかな準備が必要と考えます。

### ■今後の講座開講のために

現在は、感染は少なく落ち着いてきていますが、今後も感染拡大縮小を繰り返す事が予想されています。その状況に柔軟に対応できるような計画の立て方が必要と考えます。

- ①実施の計画は、ピンポイントの日程ではなく、第1案、第2案、第3案など、開催できない場合の代替え案を作っておき、講師、会場の確保しておく。
- ②実施・中止の判断基準と判断日を決めておき、躊躇なく判断・連絡ができるようにしておく。
- ③受講者には、講座前の自主的な感染防止の行動をお願いしておき、同時に講座での感染対策をお知らせし、安心して参加できるようにする。
- ④現状では、受け入れ施設が少なく、実習が課題となります。施設だけでなく、個人傾聴を合わせ事前にきめ細かい計画を作っておく。どうしても不可の場合、模擬実習も検討する。

長和町で講座が開講出来たのは、感染縮小というタイミングに合致した面もありましたが、準備を進めていなければ実施できなかった事と思います。

県協議会研修部としても、協力しますので「傾聴ボランティア基礎講座」の開講を計画して傾聴の活動を少し前に進めてみませんか?



感染防止のため受講生同士の間隔を広く開けアクリルパーティションを設置しています。